卒業生の皆さんへ

理学部長　菅　原　正　博

皆さん，御卒業おめでとう。理学部教官の一人として，皆さんの門出を心からお祝い申します。

昭和24年発足の広島大学から，昨春までに学士61,591名，修士8,893名，博士2,891名が巣立って行かれました。これら多くの先輩の方々に続いて，この春はいよいよ皆さんの門出です。

皆さんのこれからは，社会から保護されていたといえる学生時代とは違って，社会人として甘えの許されない自立への道となります。大学院進学の方も，学生の身分のままとはいえ，学問研究への自立しうる意識と実践とがさらに肝要となります。

より受動的であった環境に終止符を打ち，より能動的でなければならない立場へと飛躍する，という文字どおりの門出の春を迎えて，やはり皆さんは志して大学に学び，それぞれの学問に触れて卒業したのですから，その意味をじっくりとかみしめて下さい。

理学部について申しますと，昭和4年に創設の旧制広島文理科大学の理系を含めて，理学士6,582名，理学修士1,914名，理学博士1,148名が昨春までに誕生しました。そして，皆さんを合わせて約1万名となる理学のプロの門出は，60年余にわたった東千田のこの学舎からは，皆さんが最後です。

来春からは東広島鏡山の理学部の新学舎から，皆さんの後輩達が旅立って行くこととなります。工，生物生産，教育の3学部に続いて，この夏の移転を目前にしている理学部は，8階建の研究棟3棟とその回りの低層棟数棟とからなる新しい姿を，アカデミック地区の東北部に見せています。

被爆した文理大本館だった今の理学部Ⅰ号館は，歳月を経て次第に老朽化が目立つほどになっていますが，多くの理学の先達が苦労して学び，研究に従事した学舎です。その面影を残すよう，今の壁面色を基調とした外壁タイルで新学舎を包み，今の玄関鉄扉と時計を部分的ながら3階建の新講義管理棟の正面玄関回りに移設します。

理学部西側の学内道路の銀杏並木なども，やがて葉を茂らせることでしょう。図書館と総合科学部も建設が進んでおり，252万㎡の新天地に9学部がそろって研究教育を行うことができる日も遠くはないでしょう。

皆さんには，どうぞいつでも，新しい姿の母校を訪れて下さい。東千田に学んだ経験も貴重なものですが，皆さんが経験できなかった新学舎に学ぶ後輩達を激励してほしい，そして皆さんとともに充実発展して行くだろう理学の研究進展の様相を見てほしい，と願うものです。

門出にあたり，皆さんの今後の御活躍と御健勝を切にお祈りします。そして，皆さんへのお願いとして，蛇足ながら

「少年老い易く学成り難し
　一寸の光陰軽んずべからず」

を引用させていただきたい。と申しますのも，軽んじたと思わぬものの，いよいよ前半の感が深い一人となってしまった故でしょうか。